

3・23 米兵によるあらゆる事件・事故に抗議する 県民大会

みんなで集まろう
みんなで声をあげれば変わる!

基地あるがゆえにくり返される、米兵による事件・事故。

「危険な隣人」はまっぴらごめん!

私たちがみずから望んだわけではないのに、

どうして沖縄に米軍基地があり続けなきゃいけないの?

米軍再編では、辺野古に新たな基地をつくり、

高江にたくさんのヘリパッドをつくり、

米軍基地の北部集中・最新鋭化・恒久基地化が

おこなわれようとしています。

このままでは、100年たっても基地の島。

これまでのたくさんの被害者たちの無念をはらすために、

これから先にふたたび犠牲者を出すことを拒否するために、

3・23県民大会に参加しましょう!

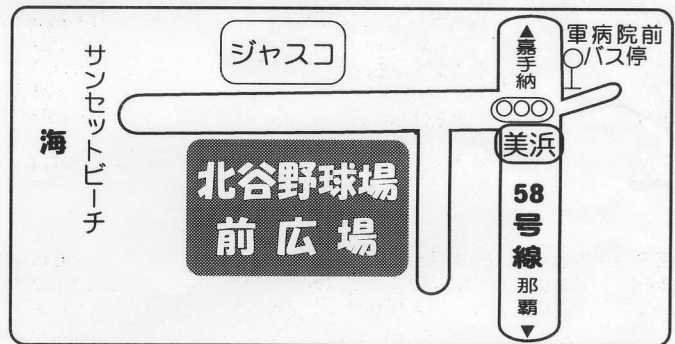
とき：3月23日(日)

午後2時から

ところ：北谷野球場前広場

(雨天時は、隣の北谷ドーム)

主催：県民大会実行委員会



Q 参加したいけれど、被害にあった人の気持ちを考えるとためられます…

A 本土のメディアやインターネットで被害者バッシングが続いています。大会に集まる人が少なければ彼らはますます調子にのるでしょう。多くの県民が参加することで、それらの中傷をはねのけて、本当の意味で被害者を守ることができるのです。

Q 「事件を政治的に利用するな」という声を聞いて、心配です。

A 基地あるがゆえの事件・事故は、日米両政府の「基地を沖縄に押しとどめておく」という、まさに「政治」が引き起こしている問題ではないでしょうか。県内の全市町村と県議会が抗議決議をしているなかで、県民大会は「あらゆる米兵による事件・事故に抗議し、日米両政府に日米地位協定の抜本改正と基地の整理・縮小を求め」て開催されます。声をあげられなかった多くの被害者にかわって声をあげ、政治を動かしていきます。

Q 何度大会をやっても沖縄の現実が変わらない。もうチルダイしてしまったよ。

A そうですね。たしかに、あの95年にわき起こった「基地返還」という県民の願いが、日米両政府によって県内移設を条件にされたために県民の意志が分断されてしまって、いまの県知事は「基地容認」まで後退しています。だけど、辺野古で「海上案」を断念させ、高江で座り込みによってヘリパッド建設を止め続けているのも、多くの県民の共感・支援があるからです。県民みんながひとつになって声をあげれば、教科書検定問題の県民大会が示したように、政府を動かすことができるのです。

発行 平和市民連絡会/辺野古への新基地建設を許さない市民共同行動

私たちは3・23県民大会実行委員会に参加しています。(住所：〒902-0061 沖縄県那覇市古島119-1 教育福祉会館407)